

冬景色

谷垣満壽子

宅急便届きし朝初あしたしぐれ

「冬景色」口ついて出る小六月

水涸るる小流れの音絶えしまま

梟ふくろふの去りて風あり農の庭

潔く己を曝す冬木かな

冬暁のラジオ流せる昭和歌

冬木の芽焦らず慌てず夢ひとつ

むかし富士みえし小径や冬晴るる

凧こがらしや辿りつきたしポストまで

口ずさむ小学唱歌柚子湯匂ふ